



外科系チーム医療DXによる 専門的外科系医師の外勤採用

株式会社クオトミー

会社名	株式会社クオトミー
代表	大谷 隼一
設立	2017年12月
住所	東京都千代田区外神田2-3-6 成田ビル3階
資本金	1億6560万525円 (2025年10月時点)
従業員	15名（業務委託含む）

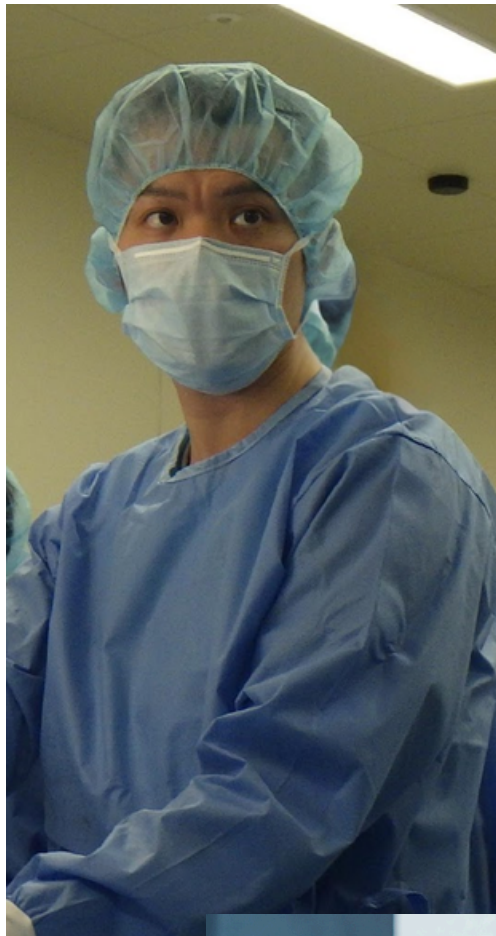


セキュリティ



特許

特許7403895
特許7553165



代表取締役・医師（整形外科） 大谷 隼一（おおや じゅんいち）

2006年 名古屋市立大学医学部卒業
その後、東京大学整形外科・脊椎外科医局関連病院にて研鑽。
東京大学医学部附属病院、横浜労災病院、JCHO 東京新宿メディカルセンター、日本赤十字社医療センター
などで、**整形外科医として15年ほど勤務。**

【論文・賞与など】
英語査読付き論文51編（共著含む）
2016年 整形災害外科学研究助成財団 臨床的研究 財団奨励賞
2017年 日本脊椎脊髄病学会 第12回 Asia Traveling Fellowship
2018年 第30回日本脊椎脊髄病学会奨励賞（大正富山 Award）



2015-16年 カリフォルニア大学サンフランシスコ校留学中に
Uber/Airbnbなどのプロダクトが生活環境を良くする体験に感銘をうける。
2017年12月 臨床業務の傍ら、医療者向けのプロダクトを作るべく
(株)クオトミー創業。
2023年3月 **メスを置き、事業にコミット。**

【賞与など】
東京都中小企業振興公社 スタートアップ知的財産支援助成事業
名古屋市立発ベンチャー企業
ひょうごTECHイノベーションプロジェクト採択
秋田県県外スタートアップ実証支援事業採択



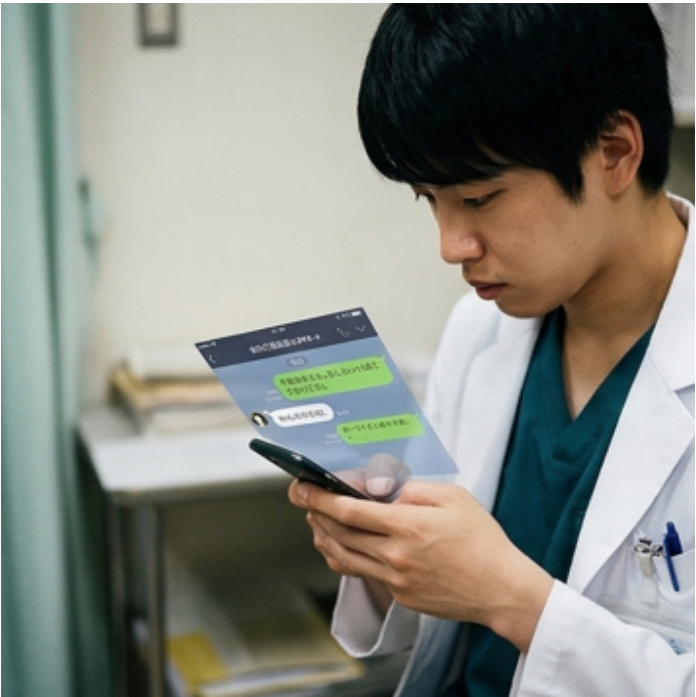
アナログな予定管理



申込したのに部署連絡



二度手間な入力管理



医療情報漏洩



時間外カンファレンス



白衣ポケットのメモ

OpeOne 手術台帳

電子カルテとは非連結
サイバーアタックリスクは
限定的

手術に関わる慣習的な
伝達・管理業務を自動化・効率化



導入済みのスマホ・汎用性ツールに連携



外科系チーム医療の生産性向上

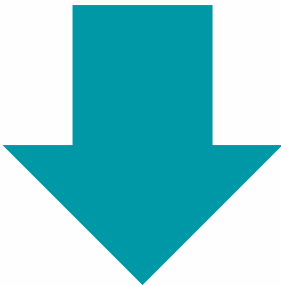
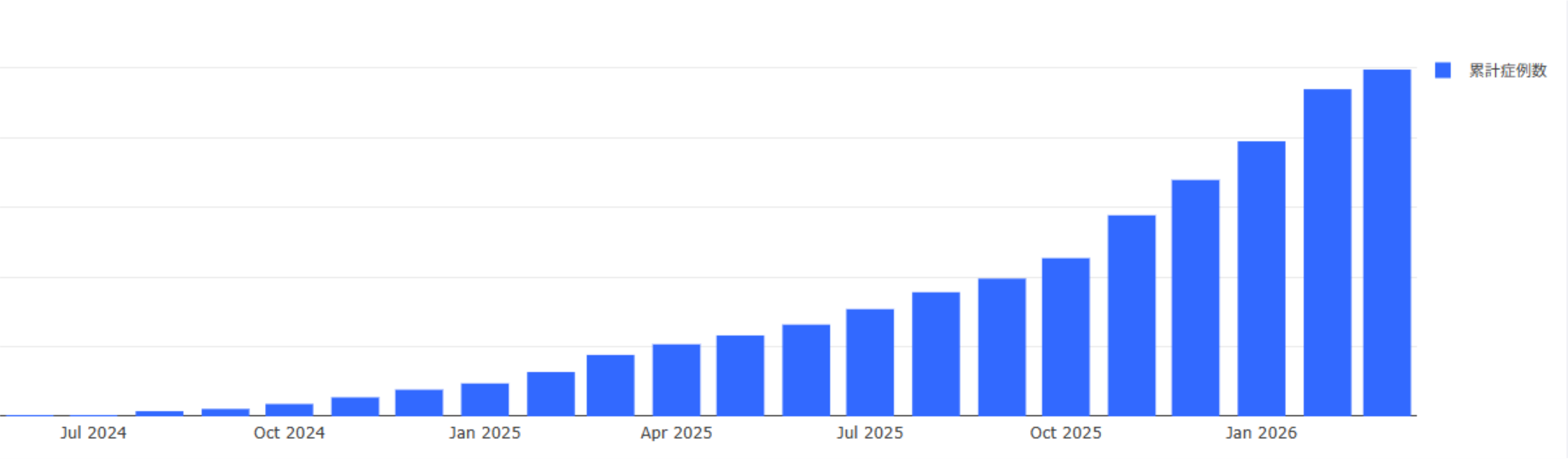
若手のストレスが減る、一体感を持って働ける臨床現場へ。香川大学整形外科がOpeOne導入で進めるDX



香川大学医学部附属病院



※掲載病院は一部です



遠隔でのチーム医療に活かせるのでは？



都市部



地方

ファクト	医師が多く、症例数も多い	医師不足
医師の課題	症例情報伝達/管理コストが高い	ひとりあたりの業務負荷が高い
OpeOneでできること	症例情報伝達/管理の効率化	遠隔でのチーム医療
必要なもの	DX	外勤を支える仕組み 専門的な人的資本



外勤意欲のある
専門性の高い外科系医師
X
外勤受け入れ態勢を整えた病院

外勤医師採用DB利用

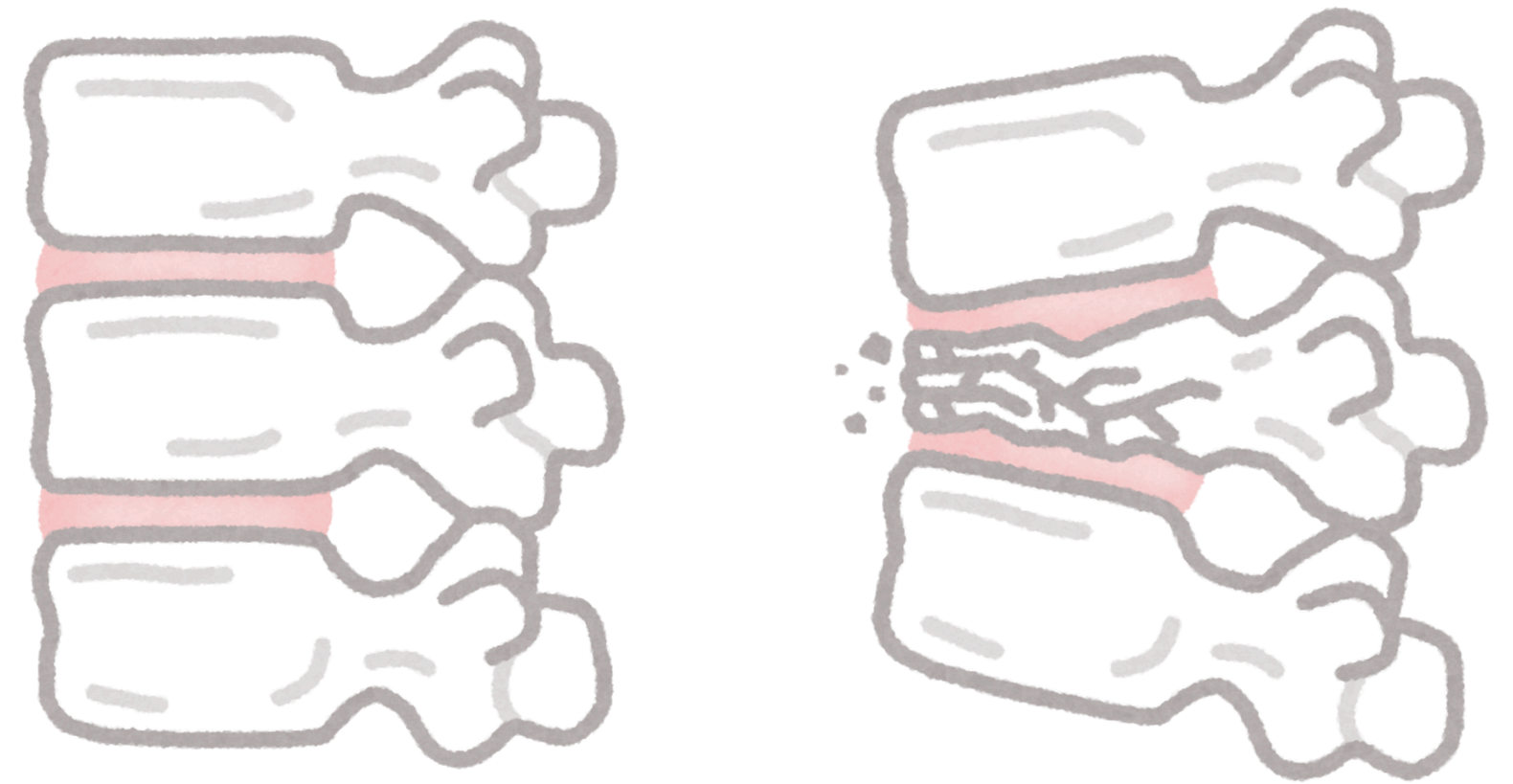


秋田大学整形外科学講座 脊椎グループの皆様



脊椎外科医はハイスキル外科医

高齢化による需要増大



例) 腰部脊柱管狭窄症、圧迫骨折

週に1回の外勤で専門的手術

D to D医療相談

1 時間 20 分
71 km



目的：

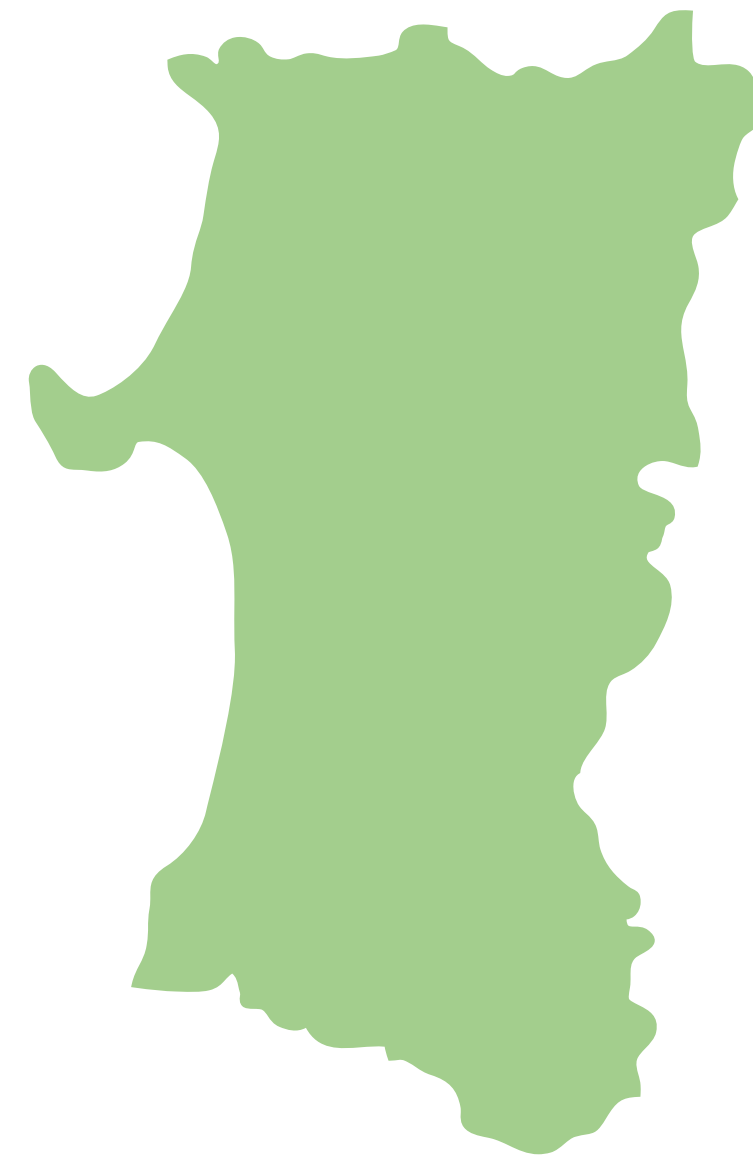
手術準備DXツールによって、応援医師による外勤手術の支援が可能となるかを検証すること

①地域病院への効果

- 1) 外勤手術増大による想定経済インパクト
- 2) 手術準備DXによる解決度

②応援医師への効果

- 3) 定性評価



仮想シチュエーション：応援医師の勤務していない日に症状増悪し、手術目的に入院した患者さん

仮想手術日：次回の応援医師勤務日

仮想診療録：電子カルテと画像データを模擬患者として用意

手術準備DXツールを用いて地域病院医師が登録し、応援医師が確認する

地域病院医師/外勤医師が確認し、WEB会議+アンケートによる定量・定性評価

入院日: 2026/02/27

0件

カルテ入院指示入力

2026/02/27 | 佐藤貴洋

手術説明

2026/02/28 | 佐藤貴洋

インプラント発注:

0件

発注

2026/02/28 | 佐藤貴洋

2日

9日

手術方針確認:

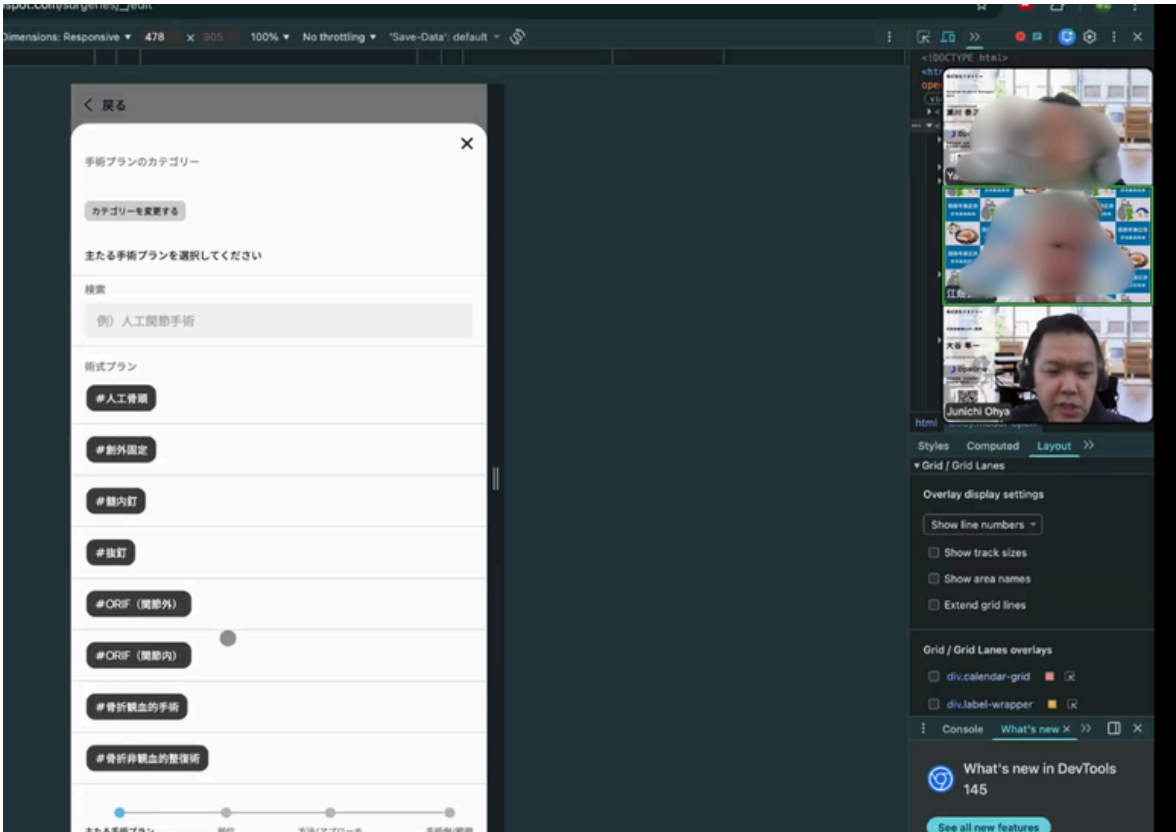
0件

カルテ手術申込入力

2026/03/01 | 佐藤貴洋

23日

カンタン登録



※経済インパクトは実際の症例の簡易的情報から試算

AKISTA2025年度：外勤医師 最終評価フォーム

B I U ↺ ↻

この度は秋田県支援の実証実験「OpeOneによる外勤手術支援」にご協力いただき誠にありがとうございます。
本フォームは、秋田大学医学部附属病院から外勤を行なわれている医師の方を対象とした匿名評価フォームです。

弊社からのサービスの説明、および外勤先の常勤医師からのURL共有を通じて、皆様が感じた印象を忌憚なくお答えください。(全9問、10分程度)

「悩ましい症例の情報がタイムリーに共有されているか？」

課題度 4点 解消度 5点

症例情報・状況把握

「情報伝達の状況（手術説明、手術申込など）確認が煩雑？」

課題度 4点 解消度 5点

「手術のインプラント発注状況を思い出すのが煩雑？」

課題度 3.7点 解消度 4点 ※「代理店の担当者が優秀にカバーしてくれるので現時点ではあまり困っていない。」

「セキュリティ対策のなされた連絡手段か不安？」

課題度 4.7点 解消度 5点（点数なし 1件）※「重大な課題ではないので解消する必要がない」



今はこうするしかないかと思い時間を割いておりますが、解決策があるということが見えただけでも気持ちが楽になりました。



サービス上で知りたい情報が手軽にわかるので、外勤先で手術を依頼される身としては大変ありがたいシステムと思います。ただ情報の詳細化（入力の手間）と簡略化（情報量の減少）はトレードオフ



「メールやLINEよりも打ち込み時間がOCRで時短になる。」



「手術予定や術式変更の連絡が円滑になると手術室も準備がしやすい。」

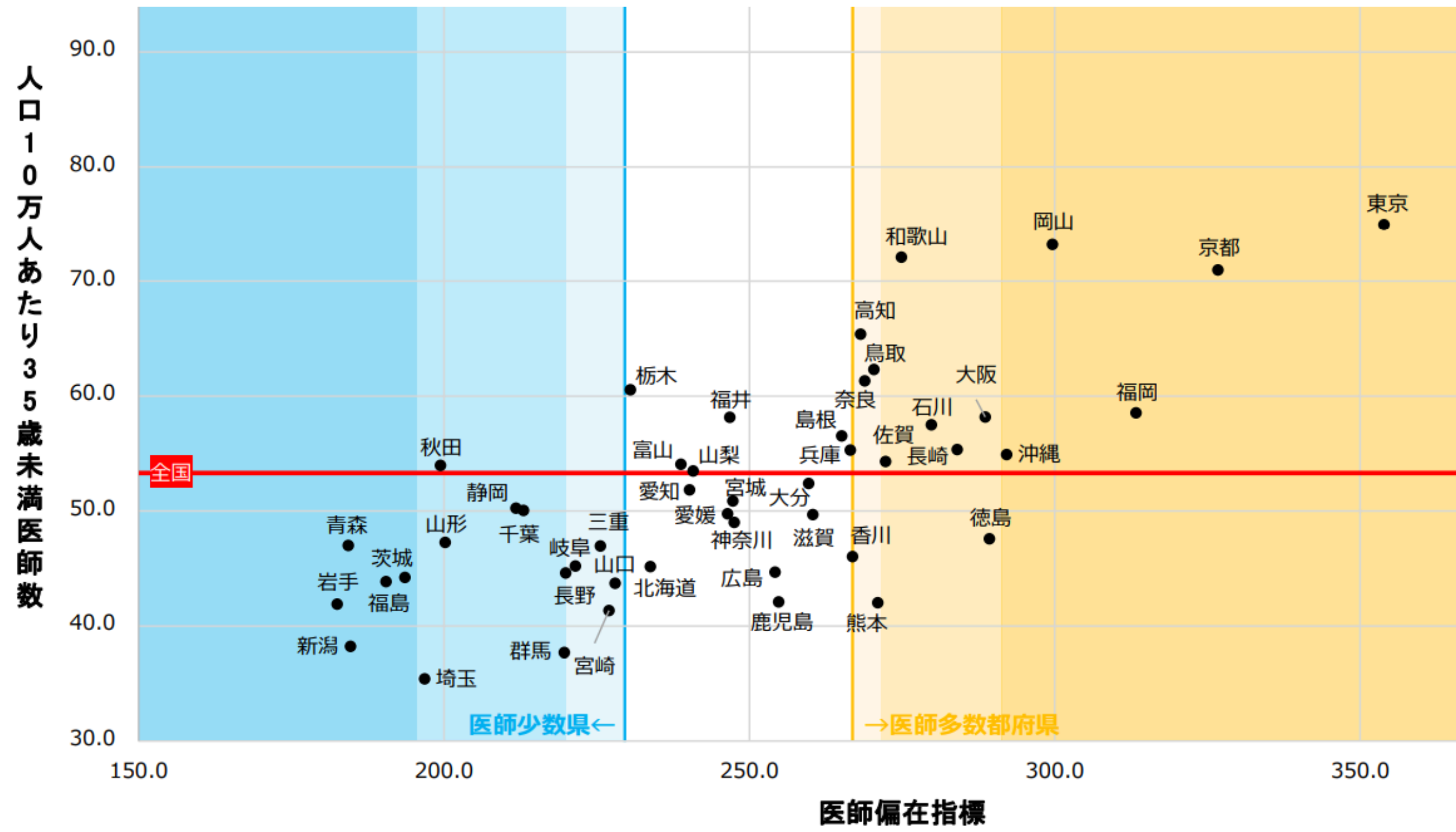


「術後の経過で相談したいときに画像がつけれて簡略的なことがありがたい。」



「専門家がチェックする画像の見方は我々と異なるので、コミュニケーションの質が高まる。」

登録が楽・情報が早い・医療画像も扱える



医師少数県の中で
若手医師が多い特徴

※「医師・歯科医師・薬剤師統計」（令和4年）の医療施設従事医師数の人数を集計
※人口10万人あたりを算出するに当たっては、総務省「人口推計（2022年（令和4年）10月1日現在）」を使用
※令和6年1月10日更新の医師偏在指標を使用

症例経験を持った医師の技術・指導があれば、医療需要に対応できる

専門的な手術で収益向上を目指せることがわかりました!!

また、DXは業務効率化と働き方改革に活かします。

DX＋外科系医療は、2026年診療報酬の追い風で下記のような加算がつきます。

2026年の診療報酬改定で、地域医療/外科系医師確保/DXの要件で下記のような加算がつきます。

- ・ 地域医療体制確保加算 入院初日に加算
- ・ 外科医療確保特別加算 該当手術 +15%
- ・ 医師事務作業補助体制加算 入院基本料に加算、DXで1.0→1.3人換算

外科系診療科のチーム制&働き方改革

外科系医師へのインセンティブ管理

外科系医療情報システムへのRPA

業務効率化・働き方改革（守り）とDXによる手術収益向上（攻め）で
医師エンゲージメントと病院経営改善を両立を目指しましょう
「医療DXに関する連携協定」の締結はいかがでしょうか？